

荒川のペットボトルゴミから、私たちの消費社会が見えてくる

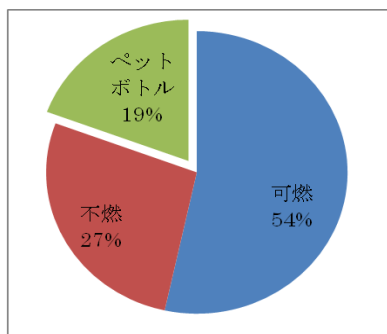
～荒川に捨てられた約 9,000 個のペットボトル調査結果より～

荒川でゴミを拾って自然を戻す「荒川クリーンエイド」が、昨年1月～12月、荒川流域 110カ所で実施されました。この度、集計された 2010 年度版の最新データでは、ペットボトルの増加傾向が改めて明らかになっています。2010年9月から12月までの間、荒川でゴミを拾うとともにペットボトルゴミの実態について調査しました。調査結果によると、①荒川ゴミの約 2 割は、ペットボトルのゴミでした。②そのうち、50%強が、自宅の水道水を用いて持参できる水・お茶でした。③荒川に落ちていた水・お茶などの飲料種別は、全国の生産量、いわゆる消費量とほぼ同じ割合でした。こうした現状を受けて、私たちは今後企業とのパートナーシップで進める「マイボトル」の推進や提言活動を通じ、調査データに基づくゴミの「発生抑制」にも力を入れてまいります。

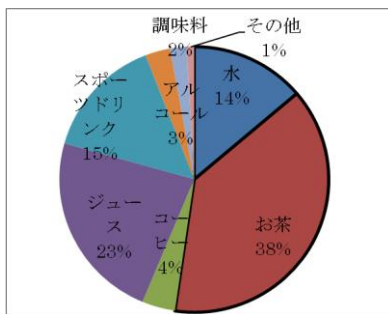
■荒川ゴミの2割を占めるペットボトル

荒川クリーンエイドとして拾ったゴミで、可燃/不燃/ペットボトルに分別したところ、ゴミ袋の割合としては約 19%をペットボトルが占めた。特に下流域では 22%を占めました。(グラフ1参照)

【グラフ1】ペットボトルの割合(ゴミ袋個数)



【グラフ2】種類別の割合(ペットボトル数)



ペットボトル調査の概要

- 調査期間： 2010年9月～12月
- 調査項目： ①量調査 ②種類別調査
- 調査実施状況：
 - ・全体の約 85%の会場で量調査を実施
 - ・約 78%の会場で種類別調査を実施
 - ・全回収個数の約 6 割の当たる 8,952 個の種類別調査を実施した

■ペットボトルゴミの5割以上がお茶と水

種類別調査において、水/お茶/ジュース類/スポーツドリンク/アルコール類/調味料など種類ごとの数を調査しました。その結果、最も多いのはお茶のボトルで約 38%。水とお茶がペットボトルゴミ全体の 50%を超えるという結果を得ました。(グラフ2参照)。

■荒川のペットボトルゴミとペットボトル生産量の割合がほぼ一致！

全国の清涼飲料「PET ボトル品目別生産量」と比較すると、荒川で拾われたペットボトルは、全国の生産量の割合とほぼ一致している結果を得ました。これにより、荒川のゴミは社会を反映していることが判明しました。(グラフ3参照)

【グラフ3】ペットボトルの種類別割合

	水	お茶	コーヒー	ジュース	スポーツドリンク
荒川で回収した個数割合	14.6	40.9	4.2	24.5	15.7
清涼飲料PETボトル生産量(*)	17.6	38.7	4.3	26.2	13.2

(*)「清涼飲料関係統計資料(社団法人 全国清涼飲料工業会)より

2011 年は、マイボトルを持参しての活動を広く呼びかけていきます。

※荒川でゴミを拾って自然を戻す活動「荒川クリーンエイド」は、2011 年で 18 年目を迎えます。2010 年は荒川河川敷の 110 会場において、のべ 10,675 名が参加してゴミ拾い・ゴミ調査が実施されました。2011 年 6 月に、社団法人日本河川協会の日本水大賞「国土交通大臣賞」を受賞することが決まりました。

【本件に関するお問い合わせ先】

特定非営利活動法人 荒川クリーンエイド・フォーラム(担当:糸岡・伊藤) 〒132-0033 東京都江戸川区東小松川 3-35-13-204
 TEL : 03-3654-7240 FAX : 03-3654-7256 E-mail : renraku@cleanaid.jp http://www.cleanaid.jp/